

林業の成長産業化を加速

- 人工林が本格的な利用期を迎える中で、豊富な森林資源を循環利用し、林業の成長産業化の実現と、美しく伝統ある山村を次世代へ継承していくことが重要。
- 人口減少社会を迎える中でも国土と暮らしを支えていけるよう、身近にある森林等の積極的な活用により、山村地域に産業と雇用を生み出し、「成長の果実」で地域を潤すことが重要。

- 利用期を迎えた人工林(年間1億m³増加)
- 林業を始める若者が増加(若年者率H2:6%→H22:18%)

- 木材自給率が上昇中(H14:18%→H24:28%)
- CLTやバイオマス等の新たな木材需要



適正な整備・保全により、国土保全や温暖化防止等に貢献

世界自然遺産地域だけでも、年間約190万人の観光客

50万m³生産の効果(※)
年間700億円
8,800人雇用

国産材CLT等普及のスピードアップ

農林水産省がJAS規格を制定(H25.12)。H26.3には、国内初となるCLT建築物が高知県において竣工。(現在、北海道、福島県等でも建設計画あり。) 今後、①建築基準の整備、②実証の積み上げ、③国産材CLTの生産体制整備を総合的に推進する必要。



※日本CLT協会による国内将来需要見込みをもとに試算。

5千kW発電施設の効果
年間49億円
50人雇用

木質バイオマス等地域材の利用促進

約40施設の発電施設が既に具体化。さらに、大型発電施設、地域密着型小規模発電や熱利用の推進、地域材等の利用拡大が必要。



国産材供給量目標
3,900万m³

国産材の安定供給と山村の人づくり

施業集約化、素材生産者など担い手の強化を加速する必要。また、村おこしのノウハウをもつ人材を育成する必要。

森林吸収量3.5%の確保

温暖化防止など多面的機能の維持・向上

間伐や路網整備など森林吸収源対策を推進する必要。また、成長に優れた苗木等の開発も重要。